

〔B類書道専攻 対象〕

書道実技・書道理論 解答例

令和4年度

一般選抜前期

私費外国人

帰国生

| | | |
|--|---|--|
| I | | |
| 問2 | 問1 | |
| (3) | (2) | (1) |
| <p>【解答のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運筆の際の筆の動きのつながり、文字を書くときの点画のつながりや、文字から文字への空中でのつながりを言うことなどに言及していること。 | <p>【解答のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本阿弥光悦、近衛信尹、松花堂昭乗の人名が記載されていること。 ・ 寛永とは江戸時代初期であることについて述べ、書風の特徴などについて言及していること。 | <p>【解答のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 王羲之の書の墨が木に三分の深さまで浸透していたという故事が由来であることに触れ、書跡また書道を指すことなどが述べられていること。 |
| | | <p>【解答のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品名「始平公造像記」、時代「北魏」が記載されていること。 ・ 仏教の隆盛に伴い、龍門に洞窟が掘られその内外に仏像が刻されたこと、また、その像を造つた由来が刻されたことなど、造像記の由来等の時代背景について述べていること。 ・ 龍門石窟寺の創建の由来、始平公を供養するために釈迦像を造営したことなど、書かれている内容について述べられていること。 ・ 中国書道史上の位置づけについて述べていること。 ・ 陽刻であり、角張った起筆などの書風について述べ、臨書するときの注意点について具体的に述べていること。 |